

就職に柔軟性をもたせるのにも効果的



理工学部教授(教育学博士)
FD委員会委員長 学生相談室相談員
横山明子氏

理工学部の横山明子教授は、キャリア関連の授業(1~4年生)を受けもつ一方、学生相談室での相談も担当し、進路問題について悩んだり、どうしてもいかわからないという学生への支援も行っています。

自分のよい面に気づく

横山 GATBは、各学年に設けられたキャリアデザインの授業の中で



●帝京大学宇都宮キャンパス

栃木県宇都宮市豊郷台1-1

理工学部(機械・精密システム工学科、航空宇宙工学科、ヒューマン情報システム学科、バイオサイエンス学科、情報科学科)、医療技術学部(柔道整復学科)、経済学部(地域経済学科)

実施しています。また、個別にキャリアサポートの中で、あるいは進路に関わる相談の中で使っています。

進路相談等の中での個別実施は、かなり以前からやっていたのですが、集団実施を始めたのは昨年からです。今まで興味検査を使っていたのですが、興味だけで選んでも実際何ができるのかわからないので、能力のほうも見たいと考えて導入しました。

理工系の学生にとって、結果がはっきり出るのはわかりやすくいいです。どのへんが得意でどのへんが苦手か。学生にフィードバックする時は優れた面を言いますが、私のほうでは学生の不得意分野も見えています。興味があつて行きたい分野が不得意分野、という学生の場合、カウンセラーと相談して対応します。普段の授業、成績などではわからない面を見たりするのにも役立ちますね。

授業では1コマで検査を実施、もう1コマを採点・フィードバックにあてています。ワークシートをやってもらい、自分で職業について調べ、どういう分野が自分は得意なのか、結果を振り返ってレポートしてもらいます。自分の適性が高かった職種に具体的にどういう仕事があるかを細かく調べ

ることにつながっています。

GATBは、自分の能力的な面を確認するわけですが、良いところを自分で発見できる。成績が芳しくなくて自己評価が低い学生でも、「自分はこういうところが良いんだ」という気づきにつながります。苦手なところより、良いところをもっと伸ばす、ということが大切です。低年次では職業について興味を持つ入り口にもなります。

就活でつまづかないために

横山 学生は自己理解がなかなかできずに、就活時にエントリーシートに書く自己PRに苦労しますが、適性検査や興味検査から探っていくのがいいのではないのでしょうか。GATBは、自己発見できるツールです。

今年度は、自分の興味や優れたところなどをもとに、自己PRをつくることにつながっていければと考えています。そのためには、できるだけ自己理解と職業理解の両方を並行してやっていきます。普段の自己理解から、自分にできそ



宇都宮キャンパス
キャリアサポートセンター課長

川澄 真氏

うな仕事は何かを考え、GATBの結果から実現可能性のある仕事を見いだし、さらに自分にできる仕事は何かを考えることによって、自分の可能性を広げて考えていくようになります。

より広い視野で仕事を探してみることにつながるためにも、GATBは有効だと思います。例えば、バイオサイエンス学科で、「総合的に考えた結果、私は研究職に行きたい。それがすべてです」という学生がいました。能力的にも適性がありますし、自己理解としては合っている。でも現実にはその仕事の求人がない。その時に、「営業とか販売なら求人があります」と勧めても、本人の決定がかたくなすぎて、「それは自分のやる仕事ではない」と。それで就職の機会を失って、結局決まらないまま卒業していく。

求人には結構いろいろな職種がありますので、いかに柔軟に考えられるかが課題です。その入り口として、GATBを用いてこういう仕事は得意そうだとわかったら、その中で自分がやりたい仕事は何だろうという方向にもつていけます。

「普段から自分の得意なことは何なのか考えなさい」「興味ある職業・仕事を、手探りでいいから探してごらん」と言ってもなかなか難しいですが、GATBによって、考える手がかりの一つが提供されることはとても有意義だと思います。